

まきどき・植えどき・収穫どき
どきどき情報7月

●**野菜の作業** 雨明け後はダニなどの害虫が増加します。
畑を良く観察し適期防除を行いましょう！

種まき	定植（植付け）	栽培のポイント																				
・ホウレンソウ ・コマツナ ・ニンジン ・ダイコン ・カブ など ※高温と乾燥で発芽が悪くなります。播種前後の灌水、発芽までの遮光、夕方涼しくなってきたからの種まき、芽だししての種まきなど工夫してみてくださいませう！	・チンゲンサイ ・キュウリ（抑制栽培） など	【スイートコーンの害虫防除と管理】 スイートコーンは直売センターの人気商品の一つです。一般に病害より虫害の方が問題となります。特にアワノメイガやアブラムシは雌穂に直接被害を与え、品質低下させ被害が大きくなります。 																				
	収 穫 ・ホウレンソウ ・青ジソ ・スイートコーン ・ピーマン ・キュウリ ・トマト ・ユウガオ ・ジャガイモ など他多数		●アワノメイガ 防除にはふ化期をとらえて行うことが必要で、雄穂出穂期及び雌穂絹糸抽出最盛期の2回が防除適期です。 ●アブラムシ 雄穂出穂期～揃期までが適期で葉裏までかかる様でいねいに散布します。 ≪散布薬剤≫ 作物名：とうもろこし ※粒剤は、葉や葉の付け根にととまるように散布してください。																			
	 <p>オオタバコガの幼虫</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>薬 剤 名</th> <th>散布時期</th> <th>倍率・散布量</th> <th>対象害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ダイブノ粒剤5</td> <td>収穫14日前まで（2回以内）</td> <td>6kg/10a</td> <td>アワノメイガ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アブラムシ乳剤</td> <td>収穫7日前まで（3回以内）</td> <td>2,000倍 200ℓ/10a</td> <td>アブラムシ類 アワノメイガ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トホノ乳剤</td> <td>収穫7日前まで（4回以内）</td> <td>1,000倍 200ℓ/10a</td> <td>アワノメイガ アブトウ</td> </tr> </tbody> </table>		薬 剤 名	散布時期	倍率・散布量	対象害虫	1	ダイブノ粒剤5	収穫14日前まで（2回以内）	6kg/10a	アワノメイガ	2	アブラムシ乳剤	収穫7日前まで（3回以内）	2,000倍 200ℓ/10a	アブラムシ類 アワノメイガ	3	トホノ乳剤	収穫7日前まで（4回以内）	1,000倍 200ℓ/10a	アワノメイガ アブトウ
	薬 剤 名	散布時期	倍率・散布量	対象害虫																		
1	ダイブノ粒剤5	収穫14日前まで（2回以内）	6kg/10a	アワノメイガ																		
2	アブラムシ乳剤	収穫7日前まで（3回以内）	2,000倍 200ℓ/10a	アブラムシ類 アワノメイガ																		
3	トホノ乳剤	収穫7日前まで（4回以内）	1,000倍 200ℓ/10a	アワノメイガ アブトウ																		
		●オオタバコガ 雌穂の絹糸が出てきた頃にアブラムシ乳剤1,000倍を200ℓ/10a散布します。（収穫30日前まで、2回以内） ○雌穂の先端不稔対策 先端不稔とは不受精（しいな）や受精後の生育障害により未完成種子が穂先に発生し、そのため品質が大きく低下します。原因としては、開花受粉時の栄養状態が大きく影響し、日照不足、乾燥、温度（適温：23度）の大幅な変化等に遭遇すると発生しやすくなります。このため生育を旺盛に保つとともに密植を避け日当たりを良くし開花受粉時に乾燥している場合は十分かん水を行うことなど大切になります。																				

【野菜の管理と追肥等 パート2】

キュウリ、ナス、トマトの追肥時期や量等については先月号で紹介しましたが、水管理も重要となる時期です。中でもキュウリは乾燥に弱く、かん水の効果は大きなものがあります。

かん水は高温時を避け夕方遅くか朝早く行い、一度に多量のかん水をして畝間に水が長時間滞水したり、畝の上までかん水することは避けます。これは根が湿害を受けたり、立ち枯性疫病の発生を助長してしまうためです。かん水方法は、できればかん水パイプやかん水チューブを利用して少量・多回数のかん水が理想です。

また、トマト果実の発育障害等も肥料や土壌水分の過不足や気温の急激な変化により発生することがありますので注意が必要です。「尻腐れ果」はカルシウム不足が原因とされており、土壌中にカルシウムがあっても土壌の乾燥やアンモニア態窒素や加里の過剰などで吸収が押えられた場合に発生が多くなります。「チャック果・窓あき果」は品種により発生に差がありますが、多窒素、石灰欠乏、土壌の乾燥・過湿などが考えられることから水管理、窒素を控え石灰を施用する等の管理が重要です。

●アスパラガス安定収穫のための株管理

アスパラガスの病害は主に斑点病、茎枯病が主ですが、アスパラガスは萌芽直後のものを収穫するので収穫物が病気に侵されることは少ないですが、立茎後に斑点病や立枯病に侵されると次年度の収穫量の減少に直結します。これらの病害は株が込み合い、湿度が上がることにより発生が助長されるので適正な株管理が必要となります。

○株管理

一株あたりの立茎は優良なもので3～5本に制限し、立茎を均等に配置する。上部は150cm程度で刈り込み、むやみに高くしない。高すぎると通風や薬剤の付着が不十分になったり、風で倒伏し傷ついたり折り重なったりして病害が発生しやすくなります。

また、マイカー線やキュウリネットなどで倒伏防止策を講じることも重要で、地上50cm位までに発生した枝、収穫しなかった不良な若茎を取り除き、通路へはみ出した枝も刈り込み風通しを良くすることも重要です。

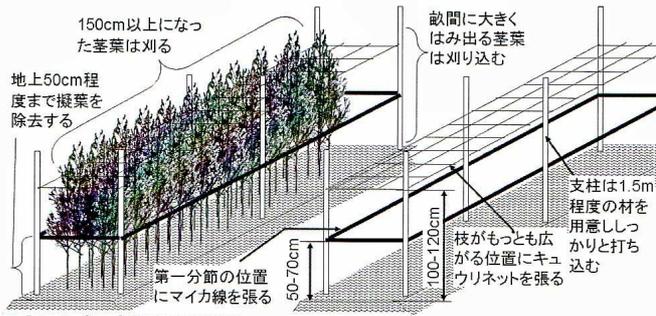


図5 アスパラガス夏秋立茎管理

○定期的な防除

アスパラガスは、斑点病・茎枯病に侵されやすく、感染すると翌年の収量に影響を及ぼす重要病害であるが、薬剤の効果が上がりにくいことから予防的に7～10日間隔で防除を行うことが重要です。

特に春収穫打ち切り後の梅雨期、秋雨期は感染の危険度が高まるため、丹念に防除を行い、刈り取り直前までしっかりと管理し翌年への越冬菌量の減少に努めることが大切です。



農業豆知識



【便利なかん水チューブの利用】



ポンプ (例)



ろ過フィルター(例)



かん水チューブ(散水タイプ:例)

○かん水作業は、夏場は特に重要な作業となります。省力的で便利なかん水チューブを紹介します。かん水チューブはご覧になった方も多いと思いますが、様々なタイプや太さがあります。「点滴タイプ」「散水タイプ」「点滴・散水タイプ」や「ノズルタイプ」などがあり、点滴タイプは根群に確実に水を供給することができ葉や茎に直接水がかからず、株元の土の跳ね返りや過湿になることが少ないなど病害の発生を減らすことにもつながります。

また、地中埋設タイプや水温を上げないようアルミ箔で覆ったタイプなどもあり、作物や用途により適したものを選ぶことができます。

ろ過フィルターは均一なかん水やチューブを長持ちさせるためには是非設置したいものであり、これも「スクリーンフィルター」「ディスクフィルター」など様々な方式や大きさがありますので水量やかん水面積、管理のしやすさなどにより選ぶことができます。

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
地域生活係 中澤普及員 (TEL25-7156)